



県内経済情勢 (令和7年10月判断)

令和7年11月6日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)

ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項目	前回（7年7月判断）	今回（7年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）7年10月判断は、前回7年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（7年7月判断）	今回（7年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	一進一退の状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
設備投資	7年度は減少見込みとなっている	7年度は減少見込みとなっている	→
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	→
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

物価上昇の影響がみられるなか、ホームセンター販売額は前年を下回っているものの、百貨店及びスーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などは前年を上回っている。乗用車の新車登録届出数は前年を下回っている。娯楽などは緩やかに回復しつつある。このように個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- セールに関係なく必要なものだけ購入するメリハリ消費が目立つ中、お盆などで家族が集まって食べるような寿司や高級洋菓子のほか、猛暑の影響もあり調理不要な総菜類が好調。8月は前年の台風に伴う時短営業の反動増等も寄与。(百貨店・スーパー)
- 物価高が続く中、節約志向の強まりを感じるものの、猛暑の影響でアイスや麺などの涼味食品やビール・サワー類等が前年以上に好調。高値が続くコメの購入や調理を避けたいというニーズから弁当や総菜類の売れ行きもよい。(百貨店・スーパー)
- 価格転嫁による販売価格の上昇や猛暑による需要の上乗せ等により売上げは前年を上回って推移。特に8~9月は清涼飲料やアイスなどの冷凍菓子が好調であり、売上げを牽引している。(コンビニエンスストア)
- 記録的な猛暑を背景に外出控えが生じているとみられ、客数は減少しているものの、値上げ効果により食料品が全般的に好調。夏物商品においてもUVケア商品や制汗剤等は伸び悩んでいるが飲料・アイス等は好調である。(ドラッグストア)
- 前年は8月の南海トラフ地震臨時情報発表や台風発生等を受け防災関連商品の売上げが伸長したが、今年はその反動減が生じている。備蓄米の販売等は好調であったが全体のマイナスをカバーするには至らなかった。(ホームセンター)
- メーカーの製造ラインはフル稼働しているものの、特定の車種について人気が集申し受注停止となってしまうことが多くなっており、販売台数は前年を下回って推移している。(自動車販売)
- 猛暑が続いたが、料金が割安になる夕方以降の来場者数が大幅に増加し、客数・売上げともに前年を上回っている。(娯楽)
- リネン業務や清掃など外部委託費用をはじめとする各種コストが上昇しているものの、宿泊客を確保するため宿泊料金を値下げした。結果、宿泊客は前年を上回って推移しており、利益も前年並みを確保している。(宿泊)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産を業種別にみると、食料品や鉄鋼などが増加しているものの、化学や石油・石炭などが減少しており、全体としては、足踏みの状況にある。

- 大阪・関西万博向けの大型案件を受注。また、代用困難な高品質商品への引き合いが安定してみられるほか、自社努力により全体的な価格競争力を高めていることもあり、徐々にではあるが取引先が拡大し生産・販売数量も増加傾向にある。(食料品)
- 米国の関税政策による影響が懸念されるものの、前年は一部完成車メーカーによる生産・出荷停止の影響があったことからの反動等から、生産量は前年より増加している。(鉄鋼)
- 国内人口減少を背景に自動車向け以外の製品需要が減少する中、安価な海外製品が大量に供給されていること等から、プラントは低稼働状態となっている。(化学)
- 猛暑やお盆期間における天候不良の影響でガソリン等の需要減少がみられたことや、ジェット燃料についても海外製品の方が安価なため販売が減少していること等により、生産量は前年を下回っている。(石油・石炭)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいとなっているものの、新規求人数は増加している。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 現場の不足感が強いところ、新卒者採用においては少子化が大きく影響。特に有資格者は県内専門学校を中心に採用活動を行っているものの、卒業者が年々減少傾向にあるなど厳しさが増しており、特定技能外国人の受入れを増やしている。(小売)
- 技術部門等に人手不足感があるものの、完全週休二日制に移行したことや県外異動がないことなど働きやすさをアピールしても応募が増えない。同業種であってもより賃金水準が高い大手へ人材が流れているのではないかと感じる。(製造)
- 突発的な人手不足に際してはスポットワークを活用して補っている。(娯楽)

■ 設備投資 「7年度は減少見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年7~9月期

- 製造業では前年比増減率2.8%の減少見込み、非製造業では同37.4%の減少見込みとなっており、全規模・全産業では同34.3%の減少見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」7年7~9月期

- 製造業では前年比増減率1.2%の増益見込み、非製造業では同9.9%の減益見込みとなっており、全規模では同8.3%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年7~9月期

- 先行きについては、7年10~12月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事請負金額をみると、前年を上回っている。

県内経済情勢 (令和7年10月判断)

(資料)

目次	(頁)
1 . 個人消費	1
2 . 生産活動	2
3 . 雇用情勢	3
4 . 設備投資	4
5 . 企業収益	4
6 . 企業の景況感	4
7 . 住宅建設	5
8 . 公共事業	5

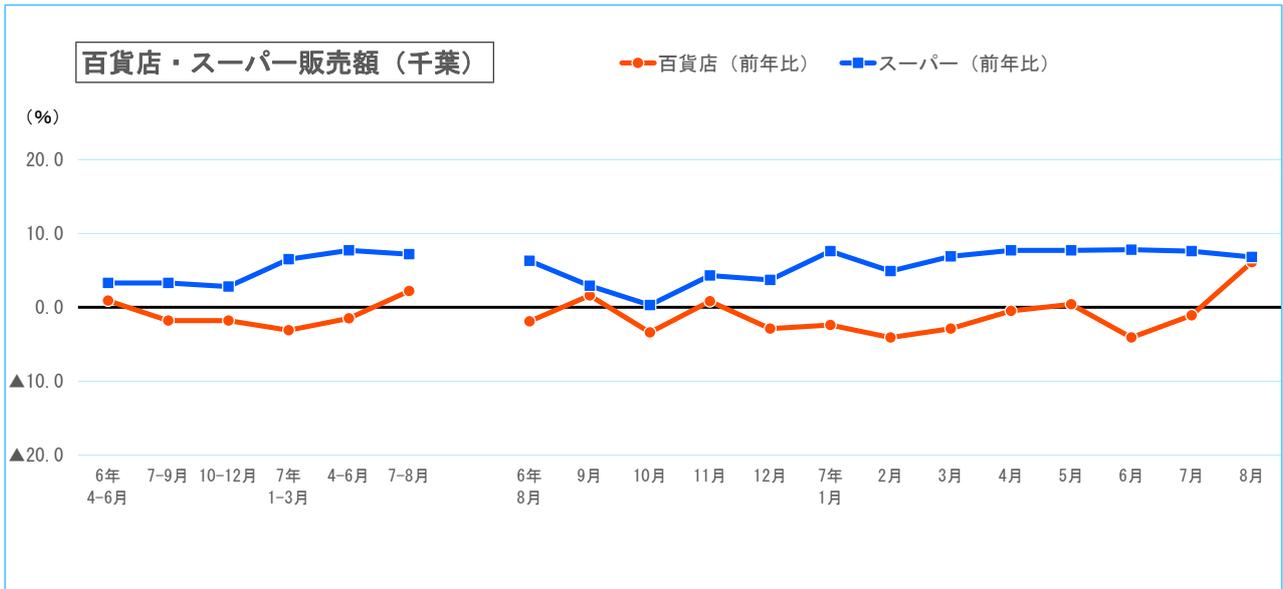
令和7年11月6日

財務省関東財務局

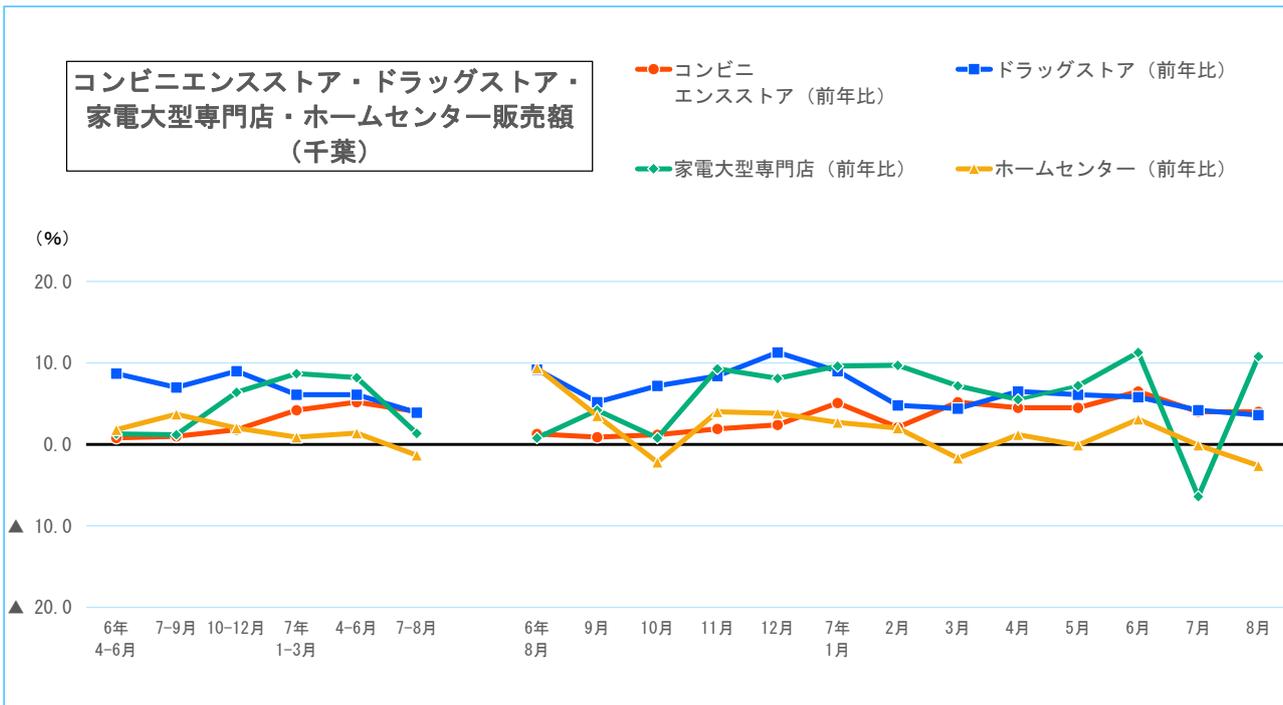
千葉財務事務所

1. 個人消費

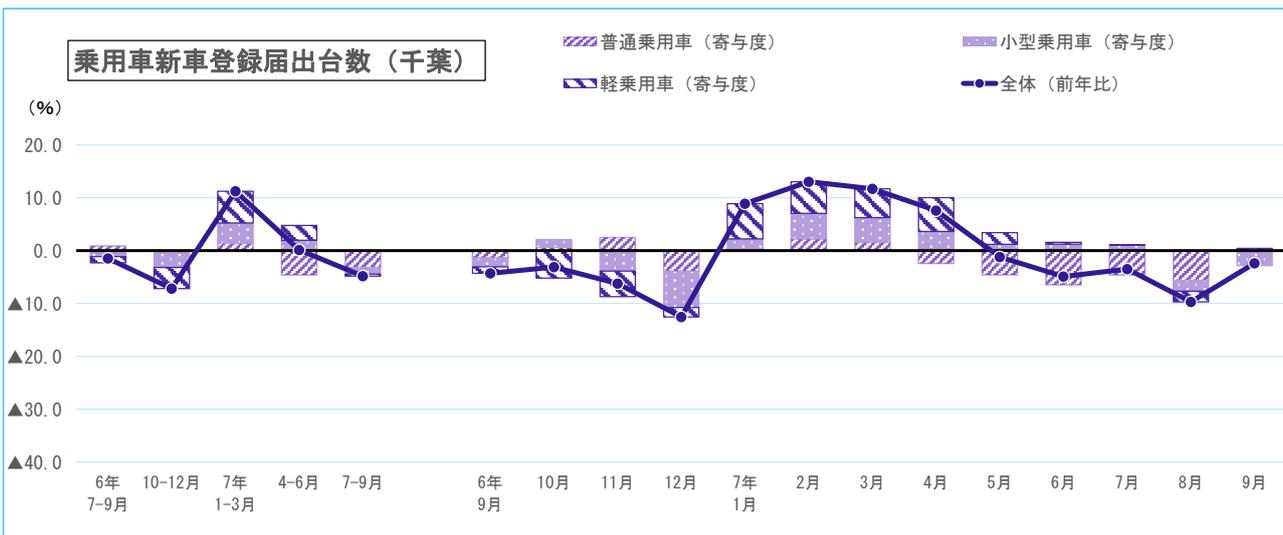
緩やかに回復しつつある



【経済産業省】



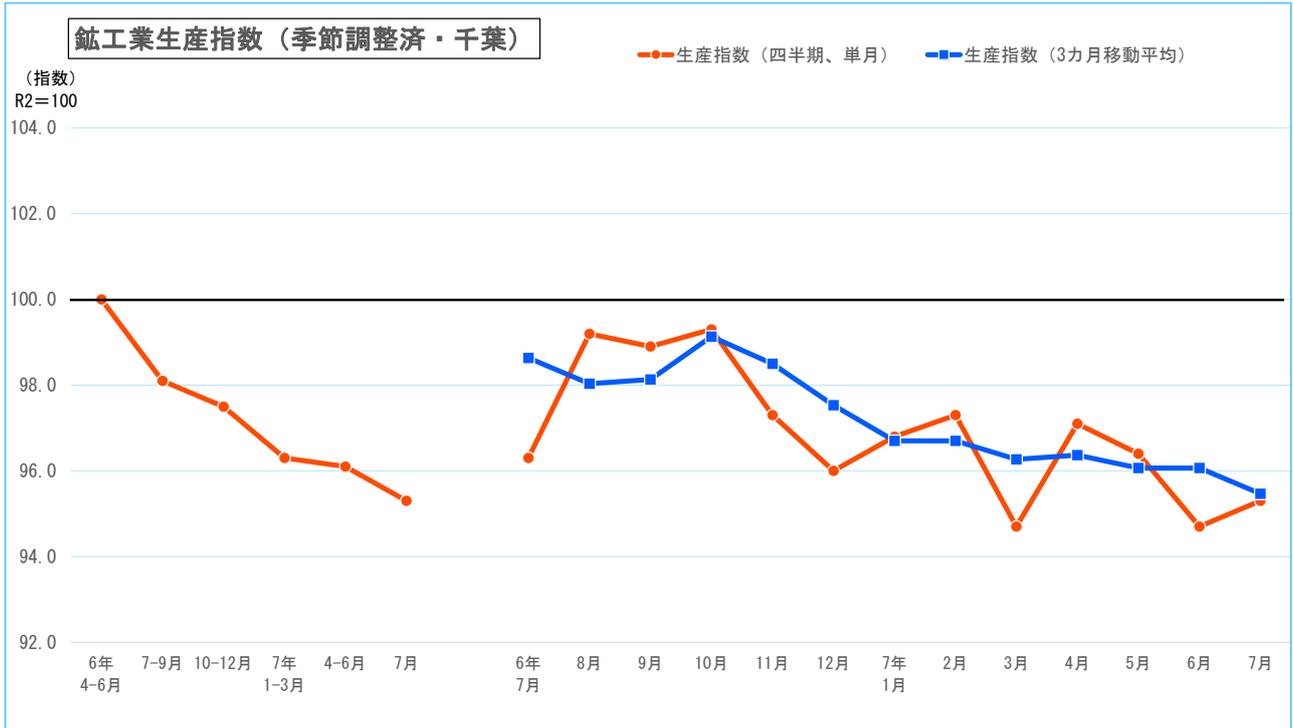
【経済産業省】



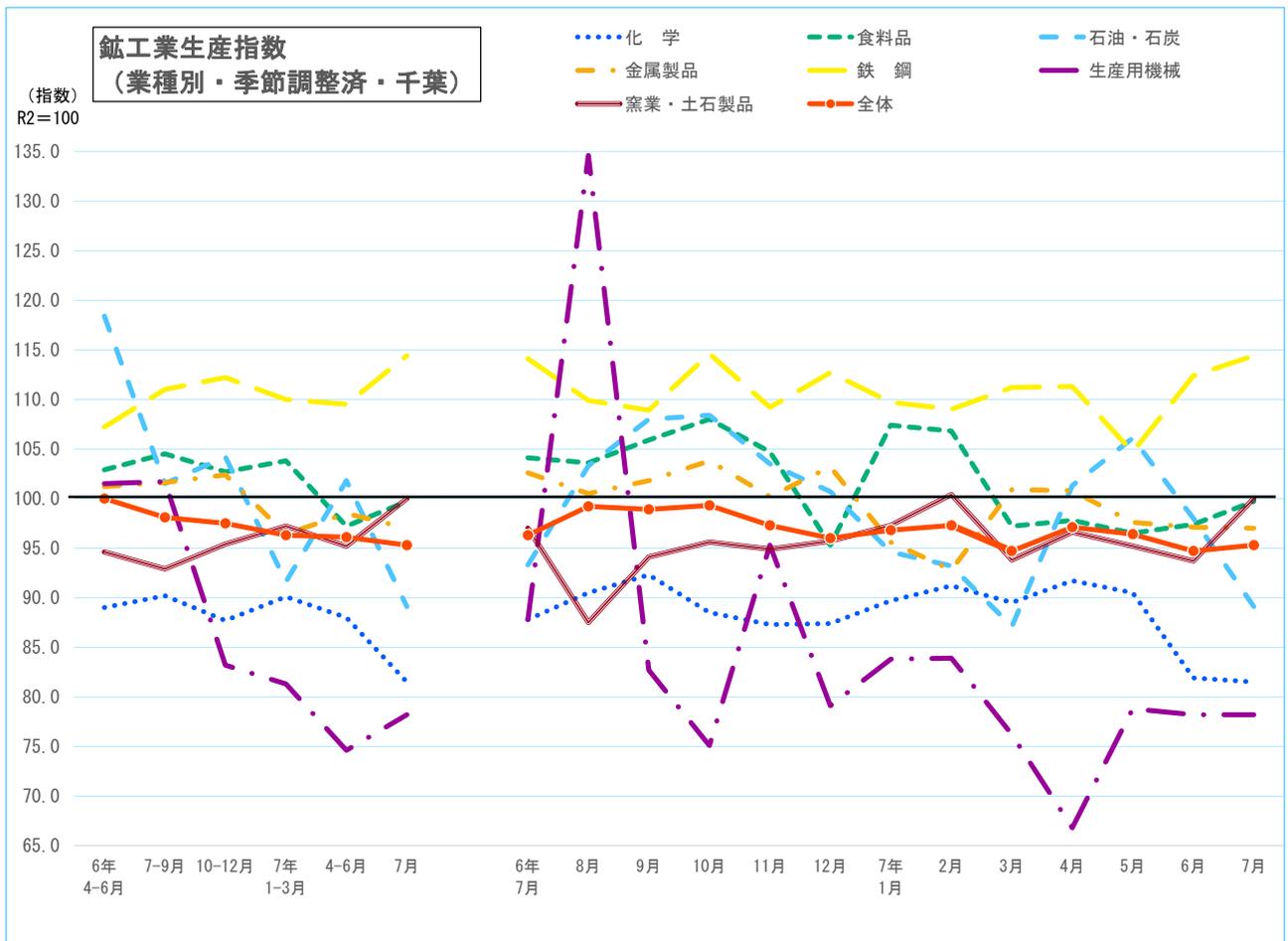
【日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会】

2. 生産活動

足踏みの状況にある



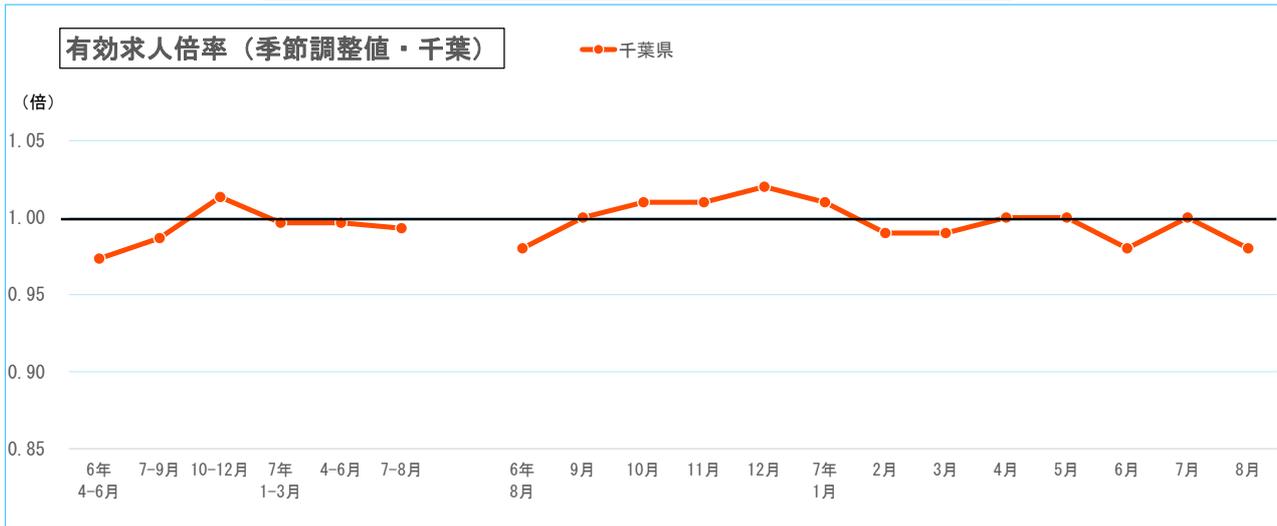
【千葉県】



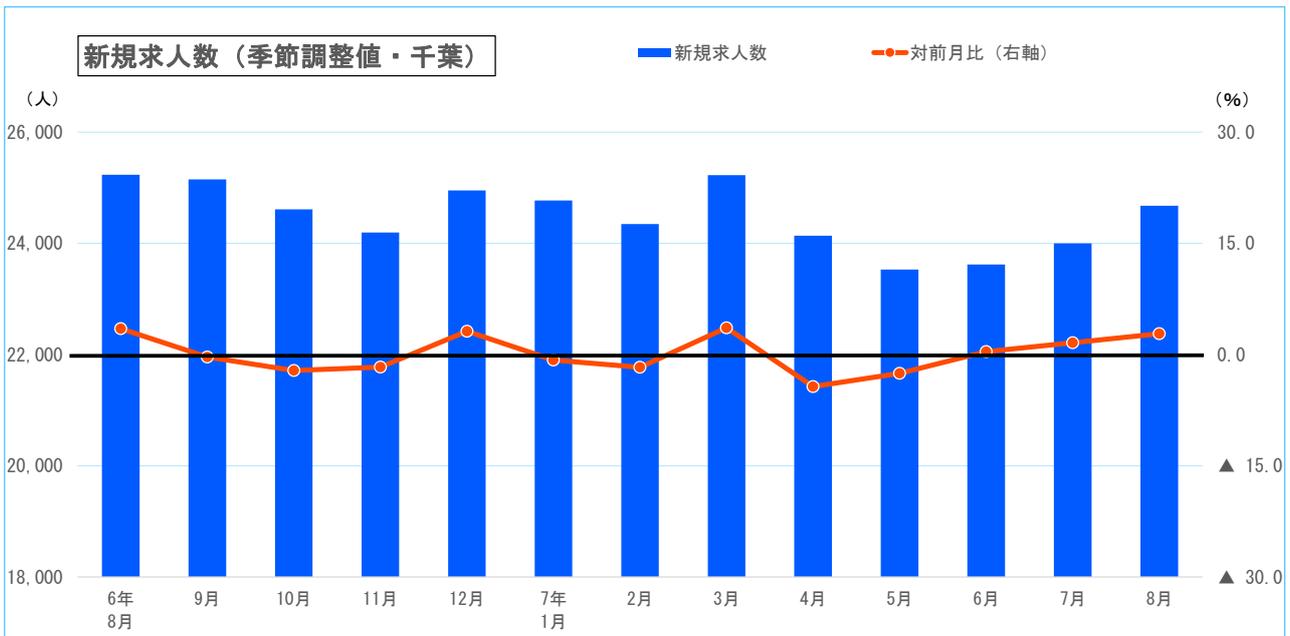
【千葉県】

3. 雇用情勢

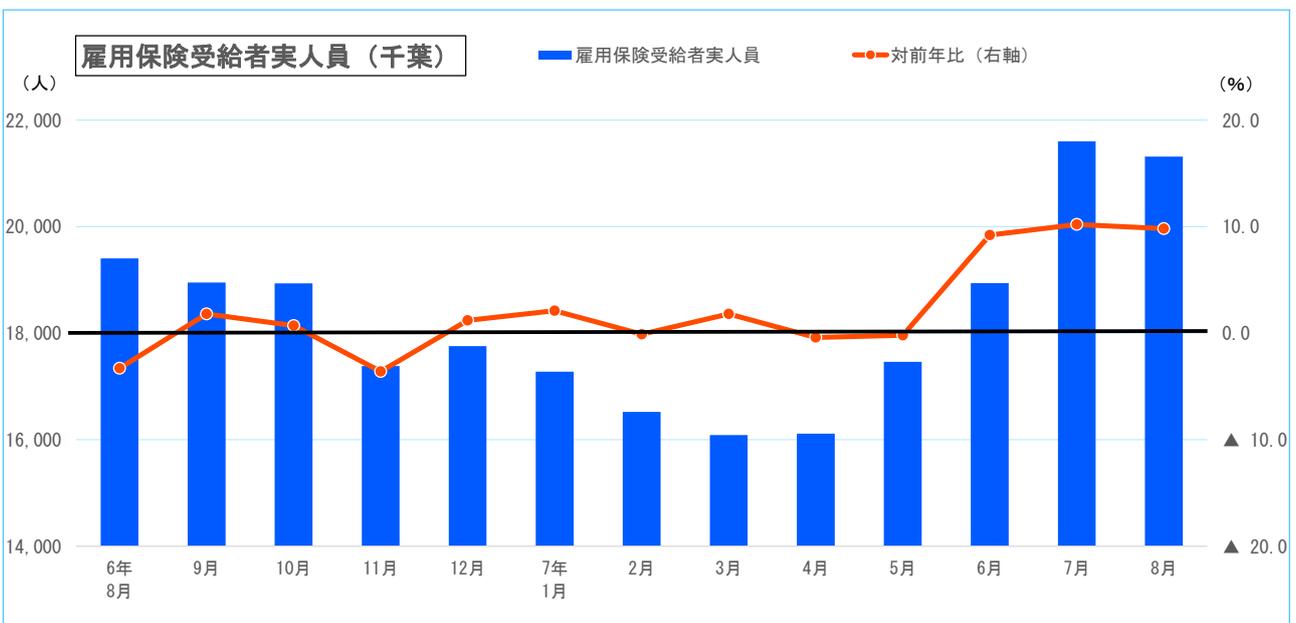
緩やかに持ち直しつつある



【千葉労働局】



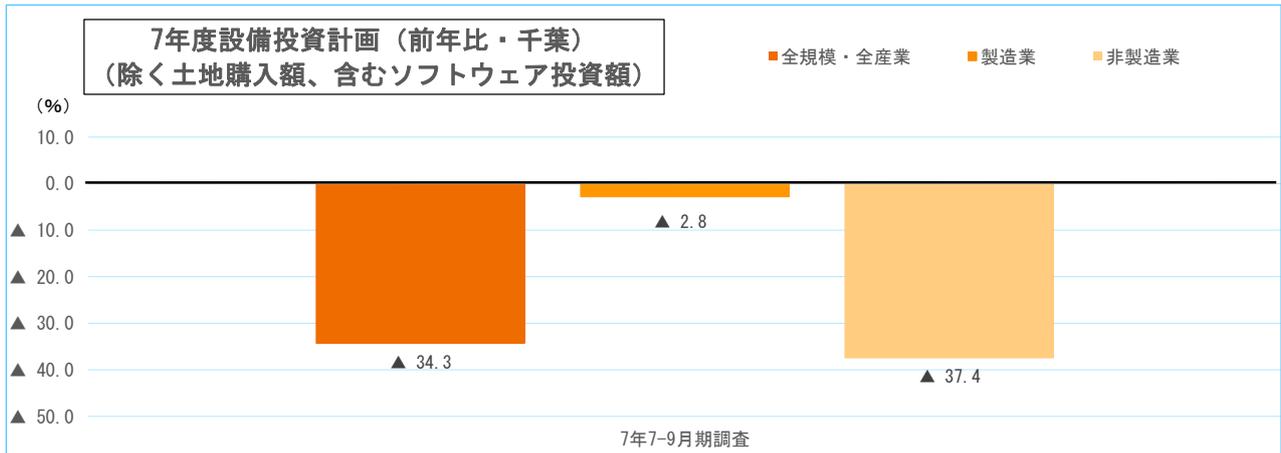
【千葉労働局】



【千葉労働局】

4. 設備投資

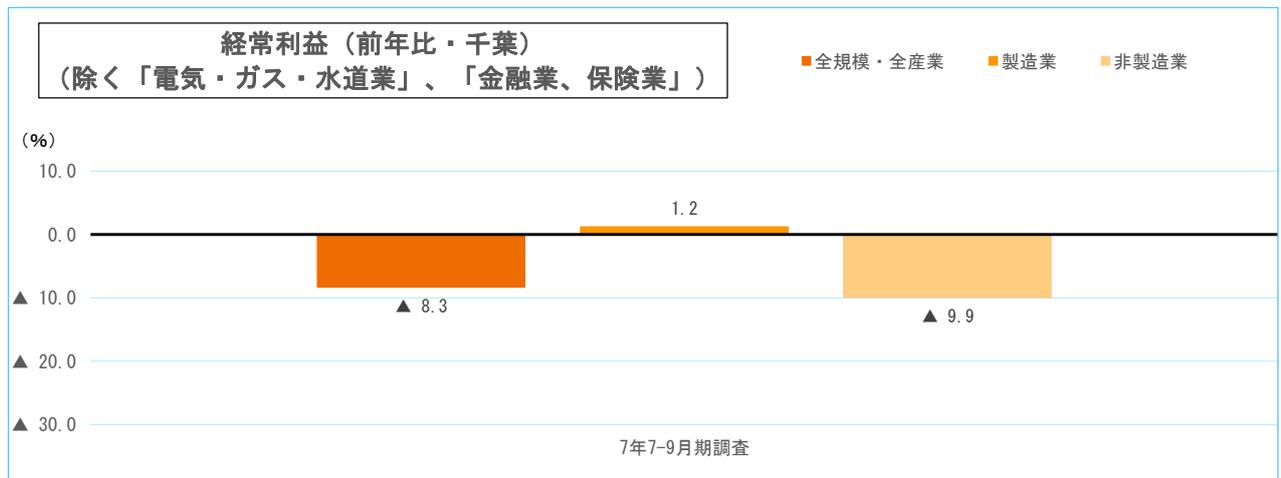
7年度は減少見込みとなっている



【千葉財務事務所 (法人企業景気予測調査)】

5. 企業収益

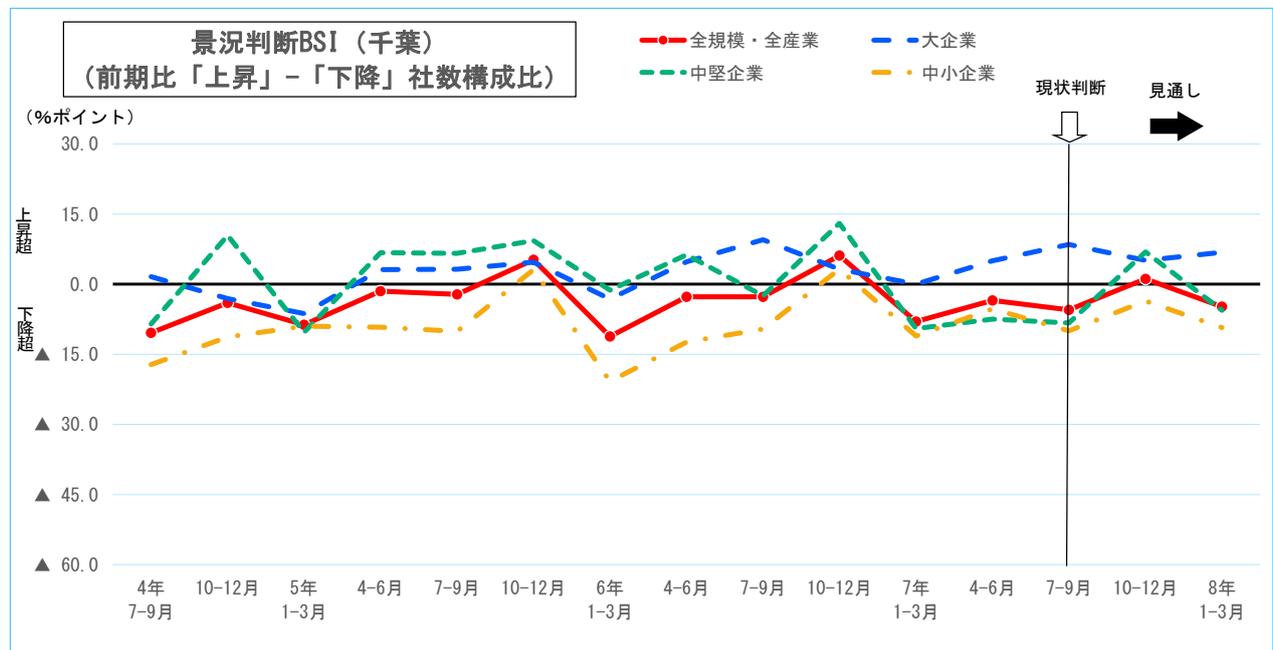
7年度は減益見込みとなっている



【千葉財務事務所 (法人企業景気予測調査)】

6. 企業の景況感

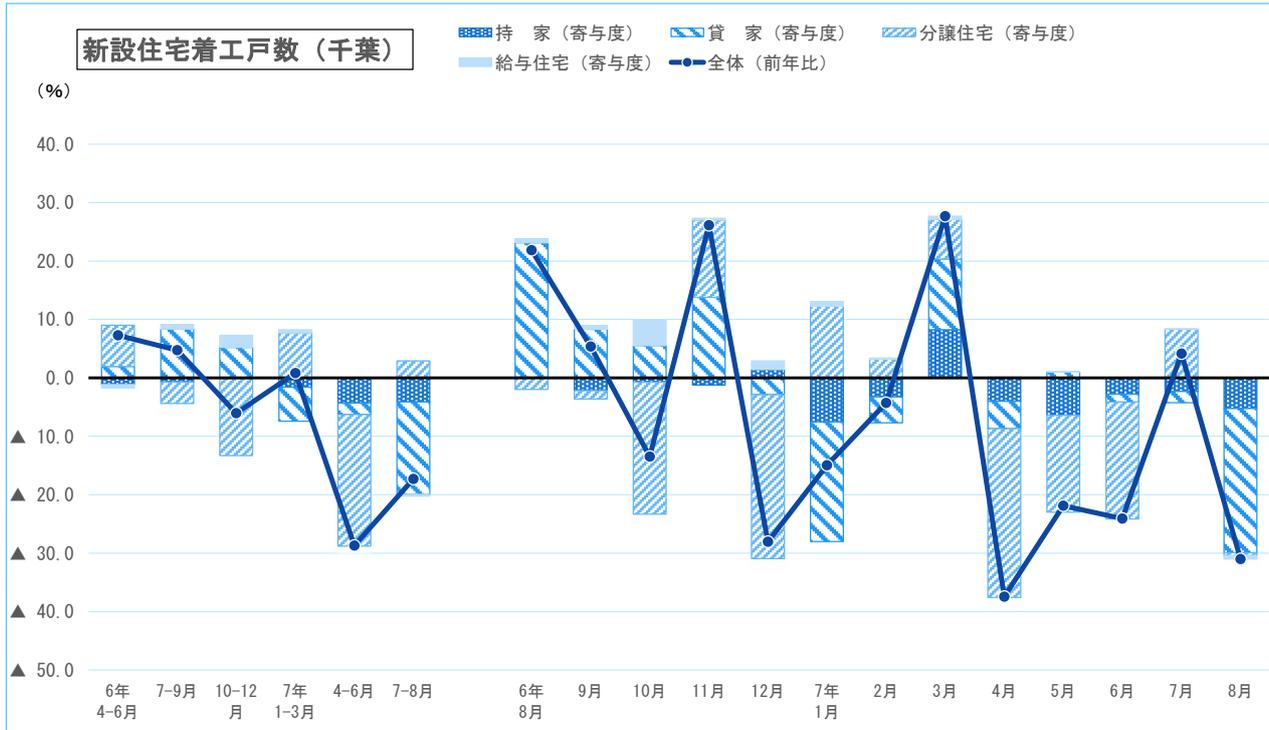
「下降」超となっている



【千葉財務事務所 (法人企業景気予測調査)】

7. 住宅建設

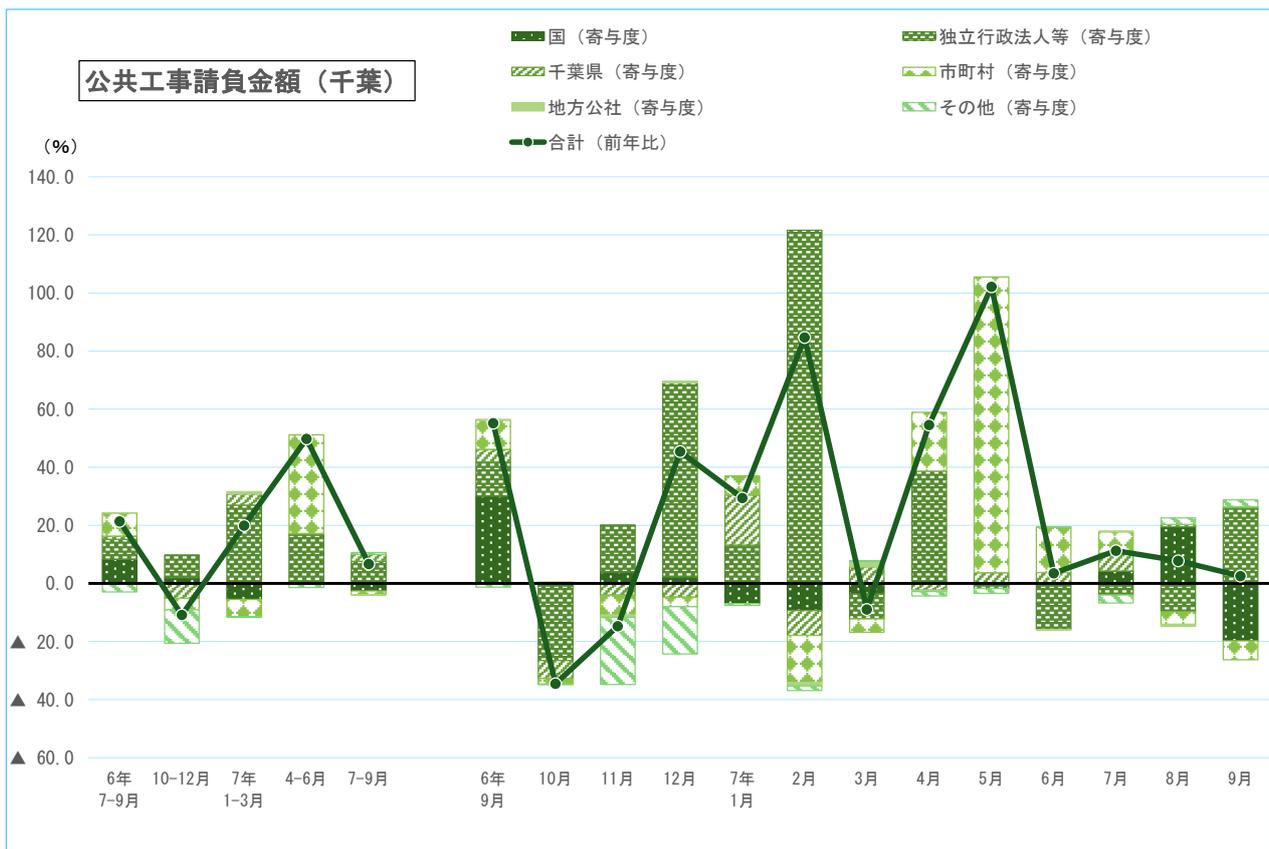
前年を下回っている



【国土交通省】

8. 公共事業

前年を上回っている



【東日本建設業保証株式会社他】